

国語 第6学年 相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第6学年の書くことの単元で、同社の年間指導計画例では12月に置かれている。他社の教科書を使う学校では、すすめたい物について、引用や図表を使って書く単元（学習指導要領B(1)エ）に置き換える。パンフレットの作例と、取り上げる物の例は、使う教科書で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、相手と目的を決めて、すすめたい物のよさを理由にしぼり、その理由を確かめられる引用や図表、写真を選んで、文章のどこに対応するかが分かるように書ける。引用はかぎでくくって出典を示し、図表や写真は理由と結び付く物だけを使う、という書き方を、他の教科の報告やまとめでも使える。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)エ	エ 引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)オ	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(1)カ	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。
〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと(2)ア	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど，考えたことや伝えたいことを書く活動。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付き、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解する（(1)ア・カ）。目的や意図に応じて書くことを選んで伝えたいことを明確にし、引用したり、図表やグラフ、写真などを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる（B(1)ア・エ）。すすめたい物のよさが読み手に伝わるように、進んで書き表し方を工夫し、グループでパンフレットにまとめようとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。((1)ア) ②話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	①進んで、引用や図表などの使い方を工夫し、学習の見通しをもって、すすめたい物のよさを伝えるパンフレットを作ろうとしている。

単元の流れ

全6時間（書くこと6時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（6年）で、この単元は12月、書くこと6時間。次ごとの内訳（1・4・1）はこちらの案。年間指導計画に合わせて増減する。学習指導要領 第3の1(5)は、第5学年及び第6学年のB書くことに年間55単位時間程度を配当するとしている。国語の標準授業時数は第6学年で年間175単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○元気が出た本や音楽、映画、地域の場所や行事など、人にすすめたい物を出し合う。 ○学習課題「相手と目的を決めて、すすめたい物のよさが伝わるパンフレットをグループで作ろう」と学習の計画を確かめる。	態①（発言・計画表）
第2次	2	○グループで、すすめる物と、すすめる相手（下の学年・家の人・地域の人など）、目的を決める。 ○本やインターネット、取材で材料を集め、取材カードに書いて分類する。	思①（取材カード）
	3	○パンフレットの構成（表紙・中のページ・裏表紙）と分担を決める。 ○担当するページの割り付けと、すいせんする文章の組み立てを考える。	知②（割り付け表）
	4 （本時）	○引用や図表、写真の使い方を比べて工夫を見付け、担当するページのすいせんする文章を書く。	思②（下書き・割り付け表）
	5	○書いた文章を読み返し、グループで推敲する。 ○参考にした資料（本の題名・作者・発行元・発行年、ウェブサイトの名前と見た日）を裏表紙に書き、一冊にまとめる。	知①（推敲の書き込み）
第3次	6	○他のグループとパンフレットを読み合い、内容と書き表し方のよいところを伝え合う。 ○学習を振り返る。	態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：すいせんする文章で、引用したり、図表や写真などを用いたりして、すすめる理由が相手に伝わるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)エ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間の割り付け表で、自分の担当するページと、すすめる相手・目的を確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「同じ物をすすめる二つの文章を読み比べます。相手により伝わるのはどちらでしょう」 【めあて】すすめる理由が相手に伝わるように、引用や図表、写真の使い方を工夫して書こう。 〈予想される児童の反応〉 ・ Bの方が、本当にそうなのかが確かめられる。 ・ Aは「おもしろい」ばかりで、どこがおもしろいのかが伝わらない。 ・ Bは数が表になっているから、くらべやすい。	・ 読み比べる文章は先生が作る。Aは理由を「おもしろい」「すごい」だけで書いた物、Bは本の一文の引用(出典つき)と、簡単な表と写真を入れた物にする。教科書の作例は使わない。 ・ 割り付け表を机に出させ、相手と目的を一行で書いた札をページの上に置かせる。
展開 (分)	3 AとBを比べ、Bの書き表し方の工夫を見付ける。 ○「Bでは、どんな物を、何のために使っていますか」 4 見付けた工夫を、全体で観点にまとめる。 (観定の例)・引用はかぎでくくり、どこから引いたかを書く。・図表や写真は、すすめる理由を確かめられる物を選び、文章のどこと対応するかを示す。・相手に合わせて言葉を選ぶ。 5 自分の担当ページのすいせんする文章を書く。 ○「あなたのすすめる理由を確かめられる引用や図表は、どれですか」 6 ペアで下書きを見せ合い、引用や図表が理由と結び付いているかを確かめ合う。 〈予想される児童の反応〉 ・ 本の中の言葉をそのまま入れると、本当にそう書いてあることが伝わる。 ・ 人数や回数は、文で書くより表の方が見やすい。 ・ 写真があると、行ったことがない人にも様子が伝わる。 ・ 下の学年の子が読むので、むずかしい言葉を言いかえた。 ・ 写真がきれいだから入れたけど、理由とは関係がなかった。 ・ 引用が長すぎて、自分の考えが少なくなった。	・ 引用は、自分の考えを言うための一部にとどめ、引用ばかりにならないようにさせる。かぎでくくる、出典を書く、引用した部分を変えない、の三つは必ず守らせる。 ・ 図表や写真は、理由の文と線で結べる物だけにさせる。結べない物は外す。 ・ 何を引用するか決められない子には、取材カードの中から「すすめる理由に一番近い物」を一枚選ばせる。 ・ 書き出しが決まらない子には、相手に呼びかける一文から書き始める例を示す。 ・ 早く書けた子には、相手を変えて書くとしたら、どの言葉を言いかえるかを考えさせる。 ・ 写真や図は、自分で撮った物・作った物か、使ってよいと示された物だけを使わせる。 ◎思② 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(下書き・割り付け表)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 工夫した所に線を引き、その工夫で何が伝わるかを下書きの横に一文で書く。 8 二人ほどが工夫した所を紹介する。 9 振り返りを書く。	・振り返りは「使った工夫と、それで相手に伝わること」「友達の下書きで参考にしたいこと」の二つで書かせる。 ・次の時間は、グループで推敲し、参考にした資料を書いて一冊にまとめることを伝える。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ。右端に日付・題名・めあて。その左に先生の作った文章AとBを並べて貼る（Bには引用・表・写真が入っている）。中央に、Bで見つけた工夫を三つの観点（引用の仕方・図表や写真の選び方・相手に合わせた言葉）にまとめて書き、それぞれBの該当する所と線で結ぶ。その左に、子どもの下書きから出た工夫の例と、外した方がよい例（理由と結び付かない写真など）を並べる。左端に振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は四つ。一つ目、すすめる理由が「おもしろい」「すごい」で止まり、何がどうよいのかが書けない。手当ては、取材カードの中から理由をしぼり、それを確かめられる材料を選ばせること（B(1)ア）。二つ目、写真や図表を見栄えのために入れ、文章と結び付かない。手当ては、図表や写真と理由の文を線で結べるかを確かめ、結べない物は外させること（B(1)エ）。三つ目、引用が長くなり、自分の考えが少なくなる。または、引用した文を自分の文のように書く。手当ては、引用はかぎでくくり出典を書き、引用の後に必ず自分の考えを一文以上書く形を示すこと。四つ目、相手を決めたのに、相手に合わない言葉で書く。手当ては、ページの上に相手と目的の札を置き、推敲の観点に「相手に伝わる言葉か」を入れること（(1)ア、B(1)オ）。グループで書く单元なので、分担した後に遅れる子が出やすい。割り付け表で進み具合を見えるようにしておく。

プリントの案

すすめる相手と目的の札

「だれに（相手）」「何のために（目的）」「何をすすめるか」の三つを一行ずつ書く札。割り付け表の上に置き、材料を選ぶ時と推敲の時に見返す。B(1)アに合わせた。

取材カード

一枚に一つの材料。「わかったこと」「どこから（本の題名・作者・発行元・発行年、ウェブサイトの名前と見た日、取材した人）」「すすめる理由のどれに使えるか」の欄。出典の欄を先に印刷しておき、引用の時に困らないようにする。

割り付け表

パンフレットのページを縮めた枠に、見出し・文章・図表・写真の置き場所を書き込む。図表や写真の枠の横に「この図表で確かめられる理由」を書く欄を付ける。B(1)エと〔知識及び技能〕(1)カに合わせた。

読み比べの文章AとB（本時）

同じ物をすすめる、先生が作った二つの文章。Aは理由を感想の言葉だけで書いた物、Bは本の一文の引用（出典つき）と簡単な表、写真の枠を入れた物。教科書の作例や本文は使わない。

推敲と読み合いのカード

推敲の観点（引用の仕方・図表や写真と理由の結び付き・相手に伝わる言葉・出典）に○を付ける欄と、他のグループのパンフレットのよいところ（内容・書き表し方）を書く欄。B(1)オ・カに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価規準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（6年）の本単元の行。単元名・時期（12月）・配当時数（書くこと6時間）と指導目標の指導事項の出典。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第5学年175・第6学年175）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県教育委員会「みえ地物一番給食の日」にかかる指導案集（平成24年）ほか、三重県で公開されている小学校の学習指導案。見出しの順と表の列の形だけ使った（中身は写していない）（<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000058456.pdf>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重